

ニューモシスチス肺炎予防における ST 合剤投与に関する後方視的調査について

横山文香、西窪奈津子

兵庫県立西宮病院 薬剤部

目的

ニューモシスチス肺炎 (PCP) 予防の第一選択薬であるスルファメトキサゾール・トリメトプリム配合錠 (ST 合剤) の標準的な PCP 予防投与推奨量は、1 日 1 錠連日または 2 錠週 3 回とされるが、標準量より低用量で PCP 予防が可能であることを示唆する報告もある。今回、患者背景により投与量にばらつきのある PCP 予防に対する ST 合剤の使用実態を把握するため、腎臓疾患治療における ST 合剤予防投与について現状調査を行った。

方法

2019 年 4 月から 2021 年 3 月に PCP 予防目的で ST 合剤を使用した患者を対象としてカルテによる後ろ向き調査を行った。調査項目は、年齢、性別、治療内容、ST 合剤の投与方法、PCP 発症の有無、血清 Cr 値、K 値、血小板数とし、投与方法により 2 群に分類し、1 錠連日投与を A 群、1 錠週 1 回投与を B 群とした。

結果

対象症例 36 例の年齢は 54.7 歳、性別は男性 22 例、女性 14 例であった。治療内容は、A 群はネフローゼ等に対するステロイド治療、B 群は腎移植治療であった。調査対象全例において PCP 発症は認められなかった。ST 合剤開始後の血小板数推移について、A 群では $81 \pm 19\%$ に減少したのに対し、B 群では $100 \pm 22\%$ で推移した。また、K 値が 0.5 mmol/L 以上上昇した例は A 群 5 例、B 群 5 例であった。血清 Cr 値上昇は全症例の半数で認められたが、その変化率の平均は A 群で 5%、B 群で -2% であった。

考察

今回の調査において、患者背景が異なるうえ、症例数が少なく、観察期間が短いことから、投与量の妥当性を評価することは限界がある。しかし、1 錠連日群で血清 Cr 値上昇傾向が認められ、また血小板減少が目立ったことから、PCP 予防における ST 合剤の投与量を標準量より低用量で行うことで副作用の発現が抑えられる可能性が示唆された。